

◀JICA だより▶

中部パラグアイ森林造成 プロジェクトの発足

林 久 晴

前号で紹介したマレーシア・サバ州造林技術開発協力プロジェクトに引き続き、新たに誕生したプロジェクトを御紹介する。

去る6月25日、パラグアイ共和国との間で、「中部パラグアイ森林造成計画」のR/D(討議議事録)が署名されたが、これはプロジェクト技術協力方式による林業協力としては16番目、パラグアイ国との間では「南部パラグアイ農林業開発・林業部門」(昭和54年3月~62年3月)に次いで2つ目のものである。

1. プロジェクト発足の背景

パラグアイ共和国の森林面積は国土の約34%を占め、木材の輸出額は綿、大豆に次ぐ等、同国の重要な産業である。しかし、近年の無秩序な開発により森林資源は急激に減少し、木材生産のみならず、国土保全の面からも大きな問題となり、森林の保全・造成が国家的な重要課題となっている。このような状況にかんがみ、我が国は昭和54年から南部パラグアイにおいて上記プロジェクトの協力により、テラロッサと呼ばれる土壌における造林技術の開発、木材利用加工の高度化に係る技術協力を実施してきたが、同国は、約2,000万haに及ぶ砂質土壌における大規模な造林の推進に資するため、新たにサン・ペドロ県カピバリ地区において造林技術の開発の協力を要請して来た。この要請に対し、我が国は、3次にわたる調査団を派遣し、協力の内容を検討し、62年6月から5か年間に亘る協力をする事としたものである。

2. 協力の内容

(1) 協力の目的：砂質土壌における造林技術の開発・改良及び人材の養成を行ないパラグアイの造林の推進に資すること。

(2) 協力活動：目的の達成のため、次の協力活動を行う。

- ① 適合樹種の選定：砂質土壌に適合した樹種の選定を行う。候補樹種としては、テーダマツ (*Pinus taeda*)、スラッシュマツ (*P. elliottii*)、カリビアマ

HAYASHI, Hisaharu: Outline of the Technical Cooperation for the Re-afforestation Project in Capibary, Central Paraguay

国際協力事業団林業水産開発協力部

ツ (*P. caribaea*), ユーカリ類 (*Eucalyptus grandis*, *E. robusta*, *E. saligna* など), ポプラ類 (*Populus alba* など) があげられる。

- ② 苗木生産技術の開発改良：育苗技術，採種技術等の開発改良を行う。
- ③ 造林技術の開発・改良：植栽方法，地拵え・下刈り方法，霜害防止技術等の開発・改良を行う。
- ④ 森林経営管理技術の開発・改良：森林の計画的な取扱い，山火事等の防止等の開発・改良を行う。
- ⑤ 人材の訓練：造林の推進に必要なパラグアイ人の訓練を行う。

(3) 日本人専門家の派遣：協力期間中，我が国からは，造林，森林管理，苗畑，林業機械に係る長期専門家（派遣期間が1年以上の者）を派遣するとともに，必要に応じ短期専門家の派遣を行う。また，業務調整員（長期専門家）を派遣する。

(4) 機械の供与：プロジェクト活動に必要な林道，苗畑，造林，森林管理のための資機材を我が国から供与する。

(5) 研修員の受入れ：人材の養成を行うため，パラグアイのカウンターパートを我が国に招き，日本国内の関係機関において研修する。

(6) パラグアイ側の取る措置：プロジェクトに従事するカウンターの配置，必要な土地・建物施設の提供，プロジェクト運営費を負担する。

(7) 協力相手機関：パラグアイ国のプロジェクト実施機関は農牧省林野庁である。

(8) 合同委員会：プロジェクトの運営は，日本側はプロジェクトリーダー他専門家及びパラグアイ JICA 事務所員，パラグアイ国側は，農牧省・林野庁のプロジェクトマネージャーほか関係者とで，構成する合同委員会において協議して行う。

(9) プロジェクトサイト：パラグアイ国サン・ペドロ県カピバリ地区（首都アスンシオンから東北東へ約 180 km）にある森林約 2,000 ha を対象に5か年間で約 1,000 ha の造林を行う。

以上がプロジェクトの概要であるが，これらの開発される技術は，地域への普及が強く期待されており，市町村，農業協同組合，移住開拓事務所の造林指導者や，営林事務所，農業普及事務所に勤務する職員を対象に，人材養成のための研修を行うことにしている。

日本とパラグアイの関係は古くから密接な関係にあり，日本人移住者は約 7,000 人，その多くは農業関係に従事し，パラグアイ人の評価は高く極めて親日的である。先に終了した「南部パラグアイ農林業開発・林業部門」プロジェクトについても，造林，木材利用に係る多くの個別技術の開発改良が行われ，かつ多くの人材が養成された。本プロジェクトについても，R/D 調査団が訪問した際，16 回に及ぶ新聞報道が行われ，農牧大臣自らも調査団と会い，本プロジェクトの実施に強い期待を寄せた。

皆様の御協力と御理解を得て本プロジェクトを成功させ，林業協力を通じて両国の友好関係を更に一層深めることが出来るよう願っている。